

五

第1部 悲しき奨学金

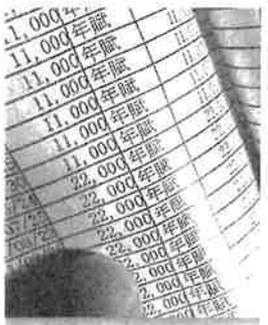
読者反

進学のお金 どう考える？

連載タ

1 名古屋市内の大学に入学した佐藤寛太さん(23)は、業時、最大1044万円の借金を背負い込む。日本生支援助機構などから借りた奨学金。母子家庭で、学費なしでは進学できなかった。機構の奨学金有利子の「第2種」。月約10万円の返還が卒業後2年続く。

2 奨学金の返還は大変な嘱託職員(25)は低収入



3 東京都のアルバイトで名古屋に帰省できない自己破産を検討中。そうなれば、連帯保証人の母に請求が回る。金沢市の弁護士も奨学金を返還中。連帯保証などでめめる相談者の家族に自分を重ねて不安になる。

4 「借金を背負って社会女子学生(20)は、奨学金



連載を始めた機構(旧日本)の返還問題が整備されず「ぜいたくからは手紙」の一部を紹介

連載に登場した若者にはそれぞれ事情があると思います。でも厳しい言い方をすれば、少し甘いなど感じました。多額の借金を抱えて社会に出ることになるケースも紹介されていましたが、もう少し堅実な資金計画が必要だと思えます。

自らの生い立ちを振り返り、「高校は工業科か商業科に行こうか」と悩んだことがあると打ち明けた男性がいましたね。私もこの男性と同じように母子家庭で育ちましたが、全日制の高校には進まず、定時制高校に通いながら働きました。それでもやりがいのある職

堅実な資金計画を 高額な学費に驚き

少し考え甘い 犬塚賢治郎さん(72)



を得ることができました。現状、奨学金は消費者金融に似ています。確実に返せるか分からないお金を借りる人も、貸す側の人も学習が足りない。私の二人の息子は地方の国立大学に進学しましたが、奨学金を借りず、仕送りだけで学費と生活費をまかしていました。

アルバイトをしてもうつことになりましたが、社会に出た後に負担をかけるよりはいいと考えました。

貧しい家庭に育った若者にも進学機会を与えて能力をいかんなく発揮してもらうために、奨学金は必要な制度です。でも、学歴を得るために大学に進む人が多い現状をどうとらえるのか、まず最初に考えるべきではないでしょうか。大学に籍を置きながら、資格取得などのために専門学校にも通っている人がいる。これでは大学の存在意義が分かりません。

「自分はなぜ大学に行くのか。奨学金を借りる人もそうでない人も、学生にはしっかりとした目的意識を持つてほしいと思います。」

(浜松市西区、無職)

る議論があると知り、危機感を強めています。専門学校を出た後も、きちんと就職し、奨学金を返していけるかどうか強い不安があり

(第3種郵便物認可)

中

日

乗

新貧乏物語

第1部 悲し

格差社会が生む現代の貧困と向き合うため、年初から連載を始めた「新貧乏物語」。第1部「悲しき奨学金」は日本学生支援機構（旧日本育英会）の奨学金事業に焦点を当て、若者に重くのしかかる返還問題や、主要国の中で唯一、返還の必要がない「給付型奨学金」が整備されていない日本の現状を取り上げた。貧しい家庭の若者の進学は「ぜいたく品」なのか。国による教育支援は十分といえるのか。読者からは手紙やメール、電話などで200件を超える意見が寄せられた。その一部を紹介し、奨学金の在り方を引き続き考えるきっかけにしたい。

進学 どうえ

育ちましたが、全日制の高校には進まず、定時制高校に通いながら働きました。それでもやりがいのある職

幼稚園や保育園の栄養士になることが目標です。今年の春に高校を卒業したら、奨学金を借りて専門学校に進みます。

進路を決める時、資料やネットで専門学校や大学の学費の高さを知って驚きました。奨学金を返せない人たちの問題に対して「借金を返すのは当然だから自己責任だ」という批判がありますが、この高すぎる学費という点を見落としてはいないでしょうか。

「では、高卒で働け」という意見もありますが、高卒で就職できる企業や職種は非常に限られているのが

高額な学費に驚き

堅実な資金計画を

少し考

借りるけど… 宇戸加奈子さん(18)



現実です。進学しないと将来の進路がなかなか開けないにもかかわらず、学費が何百万円もかかる。周りの友人には、高すぎる学費に

進学を断念し、必ずしも望み通りではない就職を予定している人もいます。こうした状況の中、国では大学の学費をさらに上げ



にも通っている人かいる。これでは大学の存在意義が分かりません。

「自分はなぜ大学に行くのか」。奨学金を借りる人もそうでない人も、学生にはしっかりとした目的意識を持ってほしいと思います。

(浜松市西区、無職)

る議論があると知り、危機感を強めています。専門学校を出た後も、きちんと就職し、奨学金を返していけるかどうか強い不安があります。

国は、教育や就職支援など、若い世代にもっと税金を使ってほしいと思います。高齢者の暮らしや医療といった分野ももちろん大切ですが、現状ではあまりにも若者が軽視されているように感じます。

国の方向性を変えるには選挙を通じて若者の声を届けるしかありません。投票年齢の引き下げにより十八歳の私は夏の参院選で一票を投じることができました。絶対に選挙に行つて、こうしたい思いを政治家のみなさんに伝えたいと思います。(愛知県弥富市、高校三年)

女子学生(20)は、



奨学金 人生が終り

5 中部地方の私立になった。奨学金の借いなかった。返還がけが残り、昨年末はペンキ塗りの現場で働いていた。大学進学は親族で初めてだったが、苦しい家計に奨学金が返されていなかっしれない。

6



7

東京の結婚サ-援制度を導入した万円を社員に支給する。国も所得に応じて月の返還額などを弾力化する新制度を検討しているが、導入は2017年度以降で、現在の返還者の救済策にはならない。

「新貧乏物語」の第11日ウェブ、中日プラスで連載にご意見をお寄せ 新聞社会部「新貧乏物語」 Eメール=shakai@chi

トをしてもらった。手したが、社会に負担をかけるより考えました。

家庭に育った若者機会を与えて能力なく発揮してもら

奨学金は必要ない。でも、学歴を得

けに大学に進む人

状をどうとらえる

で最初を考えるべ

いでしょうか。大

置きながら、資格

のために専門学校

にいる人がいる。

大学の存在意義が

せん。

はなぜ大学に行く

学金を借りる人も

い人も、学生には

とした目的意識を

しいと思います。

浜松市西区、無職)

「大卒至上主義」に疑問

会社員 関沢久子さん(47)

卒業時に一千万円の借金を背負う佐藤寛太さんを取り上げた回を読み「大卒至上主義」という世間の価値観に疑問を持ちました。大企業のおお母さんの「普通科で大学を目指して」という言葉からは、学生だけでなく親もその価値観から逃れられないことが分かります。そんな価値観のせいで「奨学金を借りても大学に進学しなければならぬ」と追い込まれる人もいます。大卒でなくても認められる世の中なら、佐藤さんは重荷を背負わなくてもよい。母として二人の子を育て、一つの価値観を押しつける世の中は生きにくいと思つようになりました。(金沢市)

将来設計ちゃんとした?

主婦 柴原聡美さん(30)

連載では、自己破産を考えるほどの返還困難問題など、奨学金制度の負の側面ばかりが書かれているように感じました。私自身、日本学生支援機構の無利子奨学金を利用して短大と大学院に進み、とても感謝しています。医療分野の資格を手にして就職もできました。返還困難問題の一部には、大学で何を学びたいか、どういう職に就きたいのかといった将来設計が欠けたまま奨学金を借りてしまったケースもあるのではないのでしょうか。ただ、国や教育現場にも努力してもらいたい点があります。能力と意欲をしっかりと持った学生が、有利子よりも無利子の奨学金を借りやすくなるよう支援を厚くすべきです。(名古屋市区)

貧しい子に チャンスを

返還意識し 就活に負担

大学の経営 見直し必要

無職 古市康利さん(69)

パート 漆原香里さん(49)

無職 八代勝美さん(79)

地域で民生委員をしており、裕福でない家庭の子が塾に通うより

私の娘二人も、日本学生支援機構の奨学金を借りて大学に通って

名古屋市職員として三十八年間勤めていて、奨学金を返すように、奨学金の返還

に苦しむ若者への励ましをつづった手紙やファクス、メールが毎日届きました。同時に、ほぼ同じ数の厳しい意見や感想もいただきました。「借りたら返すのは当たり前」「返せないなんて甘えている」「自己責任だ」一。すべて忌憚のない声として受け止めています。

確かに日本の奨学金が貸与型である以上、卒業後に完済するのは当然の義務です。ただ、返さないのではな

く、就職難などで返すことができない若者が存在するのも事実です。生活に苦勞した自分とは別の人生を歩めるように奨学金を借りてでも大学に進んでほしいと願う親もいます。

国は今、奨学金の在り方を見直そうとしています。読者の皆さんの率直な提言、そして、自身が直面している厳しい現実を取材で証言してくれた若者の声が、議論の現場に届いてほしいと願ってやみません。

虫のローンと同じなので連載の取材は、そんな疑問がありました。

して間もないころ、85歳の方から手紙をいただきました。

筆で「学区の役を致しすです。若い方の勉強の費用いたして頂けたら私と書き、現金が添えらる。

のように、奨学金の返還

いる人がいる。子の存在意義がある。

はげ大学に行く。金を借りる人も、学生にはした目的意識をいと思います。(松市西区、無職)

と知り、危機感があります。専門学で、きちんと就労を返していけない不安があります。

「や就職支援などにもっと税金を」と思っています。暮らして医療費ももちろん大探状ではあまり預められている。

出を返すには若者の声を届けません。投票により十八(参院選で一票)ができます。行なって、政治家のみならず、市民、高校三年

「よい。母として二人の子を育て、一つの価値観を押しつける世の中は生きにくい」と思っています。(金沢市)

将

しっかり持った学生が、有利子よりも無利子の奨学金を借りやすくなるよう支援を手厚くすべきです。(名古屋北区)

貧しい子に

チャンス

無職 古市康利さん(69)

地域で民生委員をしており、裕福でない家庭の子が塾に通えなかったり、学校の修学旅行の積立金を払えなかったりするという話を聞きしています。

教育は本来、こうした経済格差を解消するため、貧しい家の子にも挽回のチャンスを与えるものだと思います。しかし、奨学金が重い借金として残る現状は、社会へ出る際のスタートラインがまっすぐひかれていないのと同じです。

事態を改善するため、国には奨学金返還の一部免除や学費値下げのための学校への支援を検討してほしいです。企業は中学、高校卒の従業員が大学進学を希望した際は、雇用したまま支援し、国も税制面で優遇するなどしてほしいです。(津市)

返還意識

就活に負担

パート 漆原香里さん(49)

私の娘二人も、日本学生支援機構の奨学金を借りて大学に通っており、人ごとはない記事でした。

二人とも理系で学費が高く、実家から離れた大学に通っている。利子のある第二種を最高額の月十二万円借りています。就職活動を控えた長女は返還を意識し、「長く続けられる仕事」を考えています。長女の姿を見ている次女は「借りる金額を減らそうかな」と話しています。

夢を持って学び、社会に出る子どもが、ひたすら返還のために働き続ける世の中では明るい未来が見えません。借りたものを返すのは当然だし、安易に借りるのは良くない。でも、本当に勉強したい子が苦しまない奨学金制度の充実を期待したいです。(千葉県君津市)

大学の経営

見直し必要

無職 八代勝美さん(79)

名古屋市の職員として三十八年間勤めたこともあって大学の関係者と付き合いがありますが、大学の支出構造にメスを入れる必要があると感じています。

日本の大学の授業料はどうしてこんなに高いのでしょうか。学生が借金をしてまで捻出した授業料は、どのように使われているのでしょうか。国公立大学の先生方の給与は一般の公務員と比べて高すぎる印象があります。経営の在り方を見直すべきです。

連載では苦学生のごことが書かれていました。授業料が高い米国などでは支払いのために教育ローンで借り、返せなくなる事例が増えていると聞きました。日本でも同じようなことが起きている気がしてなりません。(岐阜県北方町)

議論のきっかけに

取材班キャップ

青柳知敏

奨学金は若者に「学(まなび)」を「奨(すすめる)」ためのもの。ところが、返還が滞ると民間業者に債権回収が任され、自己破産しても重い障害などで働けなくなるか、死亡するまで債務は消えない。

この現状は「奨学」でなく、銀行

や消費者金融のローンと同じなのではないか。連載の取材は、そんな疑問から始まりました。

掲載を始めて間もないころ、85歳の女性から手紙をいただきました。便箋2枚。鉛筆で「学区の役を致して頂いたお金です。若い方の勉強の一部にでも使用いたして頂けたら私は幸福です」と書き、現金が添えられていました。

この女性のように、奨学金の返還

に苦しむ若者への励ましを、手紙やファクス、メールが毎ました。同時に、ほぼ同じ意見や感想もいただき「借りたら返すのは当たり前だ」「甘えていないなんて甘えている」。「すべて忌憚のない受け止めています。」

確かに日本の奨学金が貸与の以上、卒業後に完済するの義務です。ただ、返さないの